

この山を「継ぐ」ために、知る。

山と溪谷

2008
November

11

第2特集

秋から冬へ、
あたららしいボトムスで

見過ごされがちな登山向きパンツに注目！

特別企画

登山者のための最新デジカメ選び
山で使うデジカメの最新事情を紹介！

【特集】
最新版

山の環境読本

環境意識が高まりつつある昨今、
登山者こそ、山の環境に
無関心ではいられません。
各地の問題と試みを紹介し、
登山者ができることを提案します。

特別グラフ

幻視 八ヶ岳

門坂流

多賀新

柄澤齊

建石修志

フリーエッセイ

小池昌代

連載 山岳装備大全

フリース

2007年度

「山と溪谷」山岳環境賞 受賞活動紹介

A賞

山のトイレを考える会

美瑛富士避難小屋への
トイレ設置に取り組む

北

北海道の山をいつまでも楽しむ
ために―を合言葉に活動する
「山のトイレを考える会」。

2000年に、登山愛好家、山岳会会員、
研究者、学生など20人で発足した。

北海道では当時、9つある百名山を
中心に、登山者が特定時期に集中して
入り、糞便や使用済みティッシュの散
乱といったトイレ問題や登山道の荒廃
などの問題が深刻になっていた。

あれから9年。同会は、登山者の野
外排泄などによる山岳環境への影響を
少しでもなくそうと、山のトイレ問題
の情報交換、関係者の意見交換の場つ
くり、登山者への普及啓発など、さま
ざまな活動を行なってきた。

「山のトイレを考えるフォーラム」は
今年、第9回を開催。多様な視点から
山のトイレ問題を考えるフォーラムは、
多くの人々の関心呼び覚ましてきた。

また、同会は①山に入る前にはトイ
レに行こう！ ②できるだけだけトイレで
用を足そう！ ③トイレにゴミは捨て
ないで！ ④使用済みの紙は必ず持ち
帰ろう！ ⑤携帯トイレも使ってみよ
う！ という「山のトイレ5カ条」を
決めて、山のトイレマナーを呼びかけ
てきた。その実行をうながすため、ト
イレマップや登山口トイレ情報のパン
フレットを作製して配布。04年からは
カラー版「山のトイレマナーガイド」
も作製・配布し、よりいっそうの普
及・啓発に努めてきた。また、01年か
ら毎年「全道一斉山のトイレデー」を
設けて、道内約20カ所の登山口で、マ
ナーガイド、トイレマップ、マナー袋
(使用済みペーパーの持ち帰り袋、06
年から実施)を配布するとともに、使
用済みペーパーやゴミを拾う清掃登山
も行なっている。

山岳環境の保全活動を行なう非営利団体に贈られる
「山と溪谷」山岳環境賞は4回目を迎えました。
今回受賞したふたつの団体、
北海道で山のトイレ問題を中心に活動する「山のトイレを考える会」、
丹沢でニホンジカや植生の地道な調査をつづける「丹沢ブナ党」の
これまでの活動を紹介します。

金子博文 構成・文



1 大雪山避難小屋への注意看板取り付け。2007
年7月 2 美瑛富士清掃登山の際、避難小屋前
にて 3 2007年3月に開催した第8回山のト
イレを考えるフォーラム

いま最重要課題として実現に向けて
取り組んでいるのが、大雪山国立公園
特別保護地区にある十勝連峰・美瑛富
士の避難小屋へのトイレ設置である。
収容定員25人の小屋は美瑛町が建設

し、実質的な維持管理は美瑛山岳会が行なっているが、管理人はいない。道内の野営指定地のある避難小屋としては唯一、トイレがない。車道、電気、水がなく、登山口から約3時間半という立地条件のため、小屋周辺には使用済みペーパーや糞尿が散乱。環境汚染の原因となるため、会の発足当初から

問題提起をしてきた。04年には、みずからペーパーや糞尿を回収して登山口まで担ぎ下ろす清掃登山を行なったが、翌年夏にはもとの状態に。事態の改善とトイレの設置を訴える約2万7000筆の署名を集め、06年に環境省と道庁に提出した。トイレ設置には「継続的な維持管理体制が必要」というのが

環境省の考えだという。

維持管理問題も考えた美瑛富士避難小屋へのトイレ設置には、基礎情報の収集が欠かせない。このため、山岳環境賞の支援金を、登山者数計測用の赤外線カウンターの購入またはレンタル費用と、新版「山のトイレマナーガイド」の作製費にあてたいとしている。

「山と溪谷」山岳環境賞 受賞のことば

A賞

活動名

大雪山国立公園美瑛富士
避難小屋トイレ設置のための調査、
および山のトイレに関する
普及啓発パンフレットの作製

団体名

山のトイレを考える会



代表・岩村和彦

このたびは栄えある「山岳環境賞」をいただき、心よりお礼を申し上げますとともに、その重責をひしひしと感じています。

世界自然遺産に登録された知床半島、大雪山、日高山脈など北海道には原始性豊かな山岳環境が残され、道外からも多くの登山者が訪れます。一方では山のトイレ問題も深刻さを増しています。

山岳ガイド、大学の研究者、登山愛好家らで2000年に当会を立ち上げ、この間、毎年、山のトイレフォーラムを行ない、全道一斉山のトイレデーでの啓蒙活動、美瑛富士避難小屋のトイレ設置の署名活動などを行ってきました。問題解決への道のりは遠いものですが、一步一步着実な前進こそ必要と努力を重ねています。

その意味で今回の受賞は当会への山と溪谷社様からのさらなる叱咤激励なのだと、私たちなりに受け取っています。

志豊かな会の仲間とともにそれに応えていければ幸いです。
(岩村和彦)



2007年9月2日の「山のトイレデー」で旭岳にて